

# 山桜の里 戸赤

## 咲いてくれてありがとう

「家族のきずなを深め、地域の和を広める山桜、ことしも咲いてくれてありがとう。」  
(テレビ放映渡部区長インタビューから)



例年になく色濃く一斉に咲きそろった(5/1撮影)  
開花期間中少なくとも約2千人が訪れた



5/5昼2回夕方1回コンサート



5/8付け福島民報

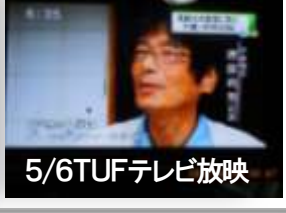
桜などで彩り豊かに  
染まった戸赤の里山



5/3雨の中  
道案内看板掲出



好評だった地元産  
そば



5/6TUFテレビ放映

5/2新聞折り込みチラシ

地元物産店

大根干し 塩さのこ  
千しぜんまい(魚+上)  
山豆 ざるまごころ  
大豆煮  
花豆  
さんじょう  
生アジ  
流外大根  
じゆんねん  
かりもち(白地)  
手打ちそば  
焼き(めんこ)

やまざくら  
5-6  
まつり

コンサート

ソッド・デレ・ビート

炭火焼きの焼き鳥などを振る舞う地域住民が開花したが、五月に入ってから雨が降り、桜祭り当日には見どころが過ぎた。それでも、訪れた観光客はまだ花をつけていた桜の風景を楽しみながら里山を散策していた。

【木地の学習No.19】  
「絵符」「道中記」「礼状」「絵符拝借願」がそれぞれ別の所で保管され、何の脈絡もないものと思われた「点」が「道中記」を仲立ちとして一本の「線」でつながると確信したとき、遠い木地師の営みの因縁の深さを覚えずにはいられなかった。高杖には前期二冊のほかにもう一冊道中記がある。菊地家に伝わったもので、表紙が破れているため年号はわからないが、文中より判断するとどうやら宝暦十一(1761)年のものらしい。嘉永三年の参宮より九十年も前のものである。出だしは「参宮道中記」と記し、居村(居住地)を出て針生を通り糸沢で一泊している。宝暦十一年当時の居村といえば保城に移る前の入小屋村戸板沢のことである。正月十日出だし帰途は中仙道の高崎で筆を絶っている。おそらくこの後は嘉永三年の道中記にあるように、沼田～尾瀬～桜枝を経て来たのだろう。そうすると帰着は四月十二日ごろとなる。四ヶ月間の長行程であった。伊勢へも参宮しているが、西国札所をすべて順拝しているところから、主目的は西国三十三観音めぐりであったと思われる。…(奥会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづ)





5/3学校雪囲い撤去



5/6河東から婦人方のコーラスグループ23人がマイクロバスで来所、私たちも「ふるさと」など一緒に歌いました

イベント 倉以仁王の道ネットコン 復活

五月連休に三ツ井のカタクリまつり、倉水の春祭りが行われ、戸赤の山桜祭りも含め高倉以仁王の道ネットワークの活動がことしは復活しました。農産物、山菜、餅、トン汁などを出店し、来訪者との交流や地区内の協力共同で元気をよびもどすことができました。



6月から販売される戸赤の花豆パイ  
6個入り1,000円を想定

豆花 栽培講習会

5/28

午後1時30分 (月)  
戸赤集会所

下郷の新商品誕生 戸赤の花豆パイ



5/3-4三ツ井のカタクリ祭り



5/4-5倉水の春祭り

した個袋と箱で下郷の商品が生まれることになりました。戸赤産の花豆あん100%に花豆を二粒入れパイ生地包んだ新商品は、個包装袋のデザインをおくやさんが提案、農林事務所と積田さんの協力によりまとまり6月から販売されることになりました。大粒の花豆が益々必要になります。



5/16新商品の裏ラベル等を協議

花豆パイの裏ラベルは販売元「戸赤村づくり実行員会」、製造元「おくや」とし、「戸赤のロゴマーク」「ヤマザクラの里戸赤の豆畑から」下郷町・南会津町限定販売」と明記

(花豆の学習[No.18]) **2土壤分析結果から** 今回土壤分析をした畑では、全体的に苦土が不足、加里と石灰が過剰ですが、塩基(石灰・苦土・加里)全体としては不足気味ですので、塩基バランス(石灰5・苦土2・加里1)を整えるように施肥量を調整してください。

項目	改良目標値	分析値概要	改善方法
PH(H <sub>2</sub> O)	6.0~6.5	5.9~7.6で、5か所の畑で6.9以上と高い。	低い畑では石灰等を施用してPHを上げる。高い畑では下層津土と混合(深耕)し改良するか、生理的酸性肥料を選択する。
EC(mS)	~0.80	全ての畑が目標値以内。	適正であり改善の必要なし。
CEC(me/100g)	10.0~20.0	全ての畑が目標値以内。	適正であり改善の必要なし。